

閣議決定は魔法の杖？

表題の毎日10月30日「松尾貴史のちょっと違和感」について、とくにマイナンバー保険証を中心に紹介する。いつもながら松尾さんのちょっと違和感に大いに同感する。

ここ数年で、印象が著しく悪くなった四字熟語が「閣議決定」ではないだろうか。あくまで個人の感想だけれども、共感していただける方は案外多いと思う。安倍晋三政権から菅義偉政権、岸田文雄政権へと政権が代わる中で、「閣議決定したよ」と言えばもう仕方がないようなムードを国民に与える魔法の杖のような使われ方をしている。

安倍元首相が、旧統一教会によって家庭を破壊された信者の息子に恨まれ、銃撃されて死亡したことで強行された「国葬」も、「閣議決定された」という強弁を用いることで国会での議論もなしに行われた。豪雨災害が起きて復旧作業の人員が足りないと言われる中、自衛隊を会場の東京・日本武道館に動員して並ばせた。さらに、以前の閣議決定では「私人」とされた昭恵氏が「国葬」の「喪主」を務めたという奇妙な現象は未代まで語られるだろう。

この魔法の杖を使って「紙などで発行されている健康保険証を原則廃止する」という閣議決定もあった。岸田内閣は今年、保険証を廃止してマイナンバーカードに一体化すると発表した。しかし、いくら閣議で決めてもこんな国民生活に密接に関わることを強制するわけにはいかないのは最初から目に見えている。

国会で野党議員から質問を受けた岸田首相は「マイナンバーカードによる一体化で保険証は廃止するが、マイナンバーカードを持たない人には資格証明書ではない制度を用意する」と答えた。では、今の保険証を廃止するのは何のためなのか。また新たな制度を作って予算を用い、中抜きを団体の新設するのだろうか。カードを持たない人には別の仕組みをわざわざ作るのならば、なぜ今一体化しなければならないのか。一体化がされてしまったとして、そのカード自体を紛失した時の本人確認はどうするのだろうか。指紋や生体認証を管理する役所でも作るのか。

最初は「保険証も銀行口座のひも付けも運転免許証もマイナンバーカードにまとめるのだ」と主張していたのに「そうじゃない人は別の仕組みで」という、時間と人と金の無駄遣いと思えぬ空騒ぎは、旧統一教会の件から国民の目を逸らすためなのか。

「国民の生活が第一という政治は間違っている」（稲田朋美元防衛相）という自民党の考え方は承知しているが、国を壊すのもいいかげんにしてほしい。反社会的カルト集団の主張と共通していると指摘される政策まで注目が集まる中、2兆円もの予算を投じて、マイナンバーカード取得者にポイントを与えるという愚策に前のめりになり、さらに保険証との一体化によって国民をさらなる管理下に置こうとする岸田政権には、一刻も早く退くことを閣議決定していただきたい。

(2022年11月1日)